

2R推進を目的とした リサイクルプラザ強化事業

ひろげる助成

3年目

知識の提供・普及啓発

住民意識調査	1,236人
研修会参加者	210人
今年度計画の達成度	100%
目標達成度	100%



研修会風景(佐賀市エコプラザ)

課題

リサイクルプラザは行政が市民に普及啓発を行う場として貴重な役割を果たしてきたが、制度開始以来20数年が経過し、利用者の固定化、活動のマンネリ化が指摘されている。

目標

2Rの推進を目的としたリサイクルプラザの意義が市町村の廃棄物関係部署ならびに住民に広く浸透し、ごみ総排出量が減少に転じる。

活動内容と成果

リサイクルプラザが2Rを進めていくために今後も必要不可欠な施設であるとの認識のもと、モデル地区等における市民意向調査を実施したり、リサイクルプラザ関係者等が情報の共有化を図るための研修会を開催した。さらに全国のリサイクルプラザを訪ね、活動状況をヒアリングした。市民意識調査は、836人に面接調査をし、さらに400人にインターネット調査を実施した。研修会は3か所で開催し計210人の参加者を得た。ヒアリング調査は、17の施設を訪問した。これらの結果は、「リサイクルプラザの今とこれから」にまとめた。



大学生が考えるリサイクルプラザとSDGs



今後の
展望

本事業の活動はわずかに3年間であり、成果が根付くまでには短すぎる。そのため、今回の活動で知り合うことができた方々に発起人となってもらい、全国で活動されている方々のネットワークの場を設定していただいた。また、リサイクルプラザにおける活動は高度のインフラ整備を伴うものではなく、開発途上国においても十分に適用可能なものであると思われるので、今回得られた知見を開発途上国に技術移転していきたいと考えている。

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

研修会参加者数は目標値をクリアしたものの、大きな波を作り出すには至らなかった。「リサイクル」というキーワードだけでは、今後大きな展開を図ることが困難と思われた。

■ 工夫した点

「リサイクル」以外のキーワード、「危機管理機能」「未来提案型機能」など新しい役割を提案した。また、そのために行政の協力、運営団体の努力が必要であることを訴えた。



体験講座作品展(耳納なっとい)

全助成期間の活動を振り返って

基調講演や事例紹介の発表内容は発表要旨集としてまとめ、ヒアリング結果はそれぞれ1~2ページにまとめた。これらの結果は各年度ごとに「リサイクルプラザの今とこれから(平成28年度版~平成30年度版)」として製本し、さらに3年間の成果から「おばあちゃんの『もったいない』とボクたちのSDGs」という冊子を作製した。これらの成果品はリサイクルプラザの現状と今後を考える上で貴重な資料になるものと期待している。

| 活動地域 | 日本全国

〒816-0961 福岡県大野城市緑ヶ丘3丁目12番9号

電話 : 090-6298-9459

E-mail : m-osawa@l-env.net

http://www.l-env.net

